



酵素&バイオ農法

Mリン農法

製品総合カタログ & 作物別施肥基準

Mリン農法とは

微生物と酵素を活用し、自然の恵みを最大に生かす農法です。効くリン酸の『MリンPK』、堆肥、ボカシ肥、葉面散布材など、様々な場面で微生物と酵素を活用しています。

リン酸を効果的に効かせる事で、安全・高品質・多収穫を実現し、リン酸の光合成促進効果で、耐病性を高めて減農薬・無消毒栽培の達成と農産物の付加価値向上を目指します。

食べる健康
おいしいは安全



三ツホ

過リン酸石灰発酵資材

Mリンカリン

エム



NET 2kg

酵素微生物発酵菌資材

1ケース(2kg×10袋) ※商標登録:第1594900号

● Mリンカリンとは

過リン酸石灰と塩化加里と米ヌカを混合し、常温発酵させて発酵リン酸肥料を作る酵素微生物資材です。Mリンカリンで処理すると、土に固定化されにくくなり、効率良く、即効的にリン酸を吸収させることができます。また、過リン酸石灰中のカルシウム吸収率も飛躍的に増加させ、資材効率を大幅に高めます。

● Mリンカリンで作った【MリンPK】の効果

- ① 着花・結実の促進
- ② 着色・糖度の向上
- ③ 発根促進
- ④ 窒素過多の改善
- ⑤ 秀品率の向上
- ⑥ 耐病性の強化
- ⑦ 光合成の促進
- ⑧ 日持ち向上

※Mリンカリン単体では使用できません。下表の原材料と配合したのち常温発酵させ、十分に熟成させてから施肥してください。

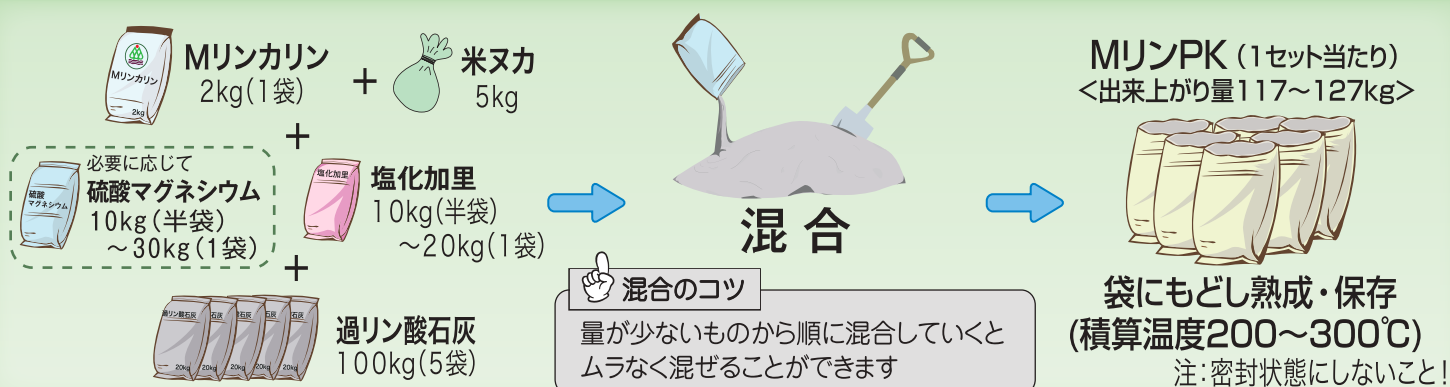
Mリンカリンの使用方法 (MリンPK (自家製) の作り方)

原材料名	標準型の配合割合
Mリンカリン	2kg(1袋)
過リン酸石灰(粒または粉)	100kg(5袋)
塩化加里(粒または粉)	10kg(半袋)~20kg(1袋)
米ヌカ	5kg

● 熟成期間について

原材料を配合したのち、積算温度200~300℃(10~30日)以上、常温発酵させます。発酵期間が長いほど、リン酸肥効が高まります。

※苦土入りMリンPKを作る場合、左記原料に硫酸マグネシウム(10~30kg)を加えてください。



配合のポイント

- 加里要求の高い作物は、塩化加里を20~30kgに増量してください。施設等で加里過剰の圃場では、塩化加里を5kgに減量してください。
- 更なる食味や着色の向上、及び果菜類や果樹への施用は、上記の原材料に硫酸マグネシウムを10~30kg混合してください。

- MリンPKは、長期間の熟成がより一層効果的です。1年以上の熟成で、さらに効果が高まります。

- 混合時に、水分の補給は必要ありません。

- 熟成期間中は、切り返しの必要はありません。

※Mリンカリンの開封後は、早めにご使用ください。
※MリンPKの熟成・保存する場合は密封状態にせず、袋や容器等に入れたままにしてください。保管する場合は、雨の侵入や直射日光を避けてください。

発酵リン酸肥料

MリンPK



NET 20kg

発酵リン酸肥料

(粉・粒)

※肥料登録：生第75891号

【効果】

リン酸を効率よく根から植物体内に吸収させることができます。

【施肥方法】

- ①全層施肥 ②畝間施肥
- ③水に溶かしてカン水施肥
- ④流水施肥(水田) ※10頁参照

<保証成分量> (%)

リン酸 全量	内可溶性 リン酸	内水溶性 リン酸	加里 全量	内水溶性 加里
15.0	14.9	12.5	4.0	4.0

リン酸の5大効果

リン酸が効くと、次の効果が期待できます

- 光合成が盛んになり、徒長を防ぎます。
- 発根を促進させます。
- 糖度が上昇すると共に、着色を促進させます。
- 作物体内に炭水化物を蓄積させ、耐病性が強化されます。
- 日持ちが飛躍的に向上し、秀品率を高めます。

スーパー MリンPK



NET 12.5kg

発酵リン酸肥料

【高濃度タイプ】(粒)

※指定配合肥料

【効果】

従来のMリンPKを、さらに濃縮した発酵リン酸肥料です。本品1袋(12.5kg)は、MリンPK1袋(20kg)とほぼ同等の肥効です。

【施肥方法】

MリンPKと同様です。(上記参照)

<保証成分量> (%)

リン酸 全量	内可溶性 リン酸	内水溶性 リン酸	加里 全量	内水溶性 加里
24.0	24.0	20.0	9.0	9.0

苦土入り スーパーMリンPK



NET 15kg

苦土入り発酵リン酸肥料

【高濃度タイプ】(粒)

※指定配合肥料

【効果】

濃縮タイプのスーパーMリンPKに、苦土を加えた発酵肥料です。本品1袋(15kg)とMリンPK1袋(20kg)のリン酸肥効は、ほぼ同等です。

【施肥方法】

MリンPKと同様です。(上記参照)

<保証成分量> (%)

リン酸 全量	内可溶性 リン酸	内水溶性 リン酸	加里 全量	内水溶性 加里	水溶性 苦土
20.0	20.0	17.0	6.0	6.0	5.0

不思議に思ったこと
ありませんか??

なぜMリンPKのリン酸は効くの、
普通のリン酸は効かないの?

リン酸やっているのに徒長する?
リン酸が効いていない?



答えは9ページへ!!

液肥用リン酸肥料

MリンPK 液肥の素



NET 2kg

リン酸・加里・苦土水溶性肥料

1ケース(2kg×10袋)

※肥料登録：生第73872号

【効果】

果菜類等の糖度・着色を向上させ、窒素過多や日照不足時の生育促進に優れた効果を発揮します。

【特徴】

水に溶けやすく、残留物がない液肥専用資材で、施設園芸においてカン水チューブ等の使用に適しています。

<保証成分量> (%)

アンモニア性 窒素	水溶性 リン酸	水溶性 加里	水溶性 苦土
4.0	30.0	6.0	5.0

土作りの基本資材

バクヤーゼ



NET 1kg

有機物発酵菌

1ケース (1kg×20袋) ※商標登録：第3013692号



● バクヤーゼとは

有機質材料を発酵処理する好気性菌主体の微生物資材です。高温で発酵することにより、有機物中の有害物質を分解し、短期間で良質な堆肥やボカシ肥を作ることができます。

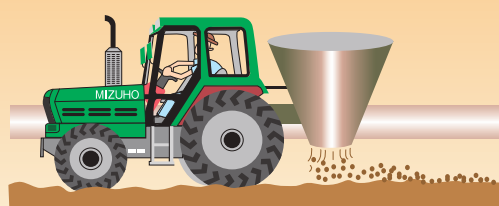
● バクヤーゼの使用目的

バクヤーゼで作った堆肥やボカシ肥を施肥することで、未熟有機物の有害な作用を防止し、土壌の有効菌が増殖して土壌病害や障害を軽減できます。また、バクヤーゼで作った堆肥の投入により土壌環境の改善や、丈夫な根作りなど、健全生育を実現するための手助けになります。

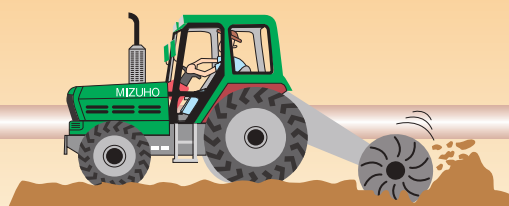
<バクヤーゼによる土中堆肥化の方法>

(10a当たり)

圃場に残存する有機物	バクヤーゼ	米ヌカ	鶏フン(有機N源)	土中堆肥化の方法
稲ワラや稲株	1袋 (1kg)	30kg	60~100kg	バクヤーゼ + 米ヌカ + 鶏フン(またはバクヤーゼK)を収穫を終えて早いうちに、圃場に全面散布し、作付けまでに数回耕起します。
麦ワラや麦株			100~150kg	
緑肥や作物残渣			60~100kg	



全面散布



浅 耕(数回)



土中堆肥化

<良質堆肥の作り方> (堆肥原料1t当たり)

- ① バクヤーゼ半袋(0.5kg)、米ヌカ20~30kgと、堆肥原料に合わせた有機態窒素(乾燥鶏フン等)を準備します。(有機態窒素は右図参照)
- ② バクヤーゼ、米ヌカを混合します。
- ③ ②で混合した材料と有機態窒素、堆肥原料をサンドイッチ状に堆積しながら、水分を55~60%に調整します。
- ④ 高さ1.5~2.5mに積み上げた後、すき間の多い場合は上から鎮圧します。
- ⑤ 酸素供給(切り返し) 夏期：10~20日おき 冬期：20~30日おき
- ⑥ 熟成期間 ワラ・モミガラ：1~2ヵ月、バーク・オガ粉：4~6ヵ月

<堆肥原料別の炭素率と必要窒素量>

(原料1t当たり)

原 料	炭素率	必要窒素量	乾燥鶏フン量
ワラ	60	約3kg	約100kg
モミガラ	150	約6kg	約200kg
バーク	400	約16kg	約500kg
オガ粉	600	約24kg	約800kg

土作り資材

バクヤーゼ堆肥

高品質堆肥
(バクヤーゼ発酵)
※特殊肥料



NET 20kg

【効果】

炭素率の高い素材を原料に使用し、バクヤーゼで発酵処理した良質堆肥です。土壌腐植が増大し、土壌環境の改善、有効微生物群の増殖に大変効果的で、多収穫を応援します。

【基本使用量】 (10a当たり) 100~150袋 (2~3t)



このマークが付いている商品是有機JAS規格栽培に対応可能ですが、詳細は各登録認定機関にご確認下さい。

バクヤーゼK

有機物の土中堆肥化資材
(粒・ペレット)
※特殊肥料



【基本使用量】

(10a当たり)

<成分分析値※>

(現物当たり) (%)

窒素	リン酸	加里	苦土	石灰
3.0~4.0	4.0~5.0	2.5~4.0	1.2~1.5	4.5~20.0

※成分分析値は、各生産工場により異なりますので、袋に表記されている分析値をご確認ください。

【効果】

様々な有効菌の働きで、畑作の残渣や稲ワラ・稲株を強力分解し、腐植化することでガス害を軽減します。また、アミノ酸やミネラルが豊富に含まれており、稲作、畑作で食味の向上を目的としたボカシ肥としても使用できます。



NET 15kg

<稲作>	
高地力(粘土地)の水田	3袋(45kg)
低地力(砂地)の水田	4~5袋(60~75kg)
<畑作>	
残渣処理	5~7袋(75~105kg)
ボカシ肥として使用	10~30袋(150~450kg)

バイオ健太クン

発根促進・根疲れ対策
超硬質炭素材(ココナッツヤシガラ炭)



【効果】

超硬質炭が土壌の透水性と酸欠を改善。発根環境を良くします。有効菌の繁殖を促進させ、塩類濃度を下げる働きがあります。

【基本使用量】(10a当たり)

<圃場施用>

約13袋(150kg)~20袋(240kg)の施用を3~5年継続します。

<育苗土>

育苗培土に10~20%の割合で混用します。



NET 12kg

バクヤーゼKは
良質の**ボカシ肥**
にもなります。
畑作の**元肥**や
追肥でもご使用
ください。



土壌障害対策資材

Mイーシー

除塩と連作障害対策資材 1ケース(10kg×2袋)

※肥料成分は含まれておりません



【効果】

有効微生物群を活用した資材です。有効菌を増殖させ、高塩基障害やいや地現象を改善し、ECを下げて、pHを調整します。

【通常の使用量】

作付け10~15日前に、本品1袋(10kg)と米ヌカ60kgを混合し、全面散布の後、耕起します。

【連作障害が出ている圃場やECが高い圃場】

作付け10~15日前に、本品2袋(20kg)と米ヌカ60kg~120kgを混合し、全面散布後耕起します。
※連作障害には、**ミスボ式土壤まるごと発酵法**(説明は下段)もご覧ください。



NET 10kg

【特徴】

●土壌病害対策

放線菌、乳酸菌、細菌、酵母菌などの有効菌群の働きにより病原菌の繁殖を抑制します。

●高塩基障害対策

有効菌が、土壌養分(塩基や酸基)を吸収し、塩類濃度を減少させます。

●いや地現象対策

前作物の根から排出された老廃物を分解または吸収し、作物の栄養分に再合成します。

●pH矯正

微生物による緩衝能力により、pHを矯正しながら正常化します。

消毒薬を使わず連作障害を軽減する技術!!

<使用資材> (10a当たり)

Mイーシー	1~2袋(10~20kg)
バクヤーゼK	20~30袋(300~450kg)
バイオ健太クン	13~20袋(150~240kg)
米ヌカ	100~200kg
完熟堆肥	3~5t

<カン水時に混ぜて使用> (10a当たり)

バイオ根助	1本(20L)
キトチンキ	1本(3L)

ミスボ式土壤まるごと発酵法

【作業工程】

- ①左表の使用資材すべてを全面散布して、土にすき込みます。
 - ②土壌中の水分が、60~70%(握ると軽く固まる程度)になるまで十分に時間をかけてカン水します。(通常は一晩くらい)
 - ③十分にカン水した後、古ビニールなどをかぶせ約20~40日間かけて蒸し込みます。この時、カン水に使用したチューブは、そのままにしておきます。水分が不足しないように時々確認し、不足したときはカン水して水分を調整します。
- ★カン水にはバイオ根助およびキトチンキを500~1,000倍液に薄めた水を使用すると、さらに効果が高くなります。

※バクヤーゼK20袋は、バクヤーゼ2袋+3袋+乾燥鶏フン300~450kgで代用できます。

太陽熱とバクヤーゼ菌で高温消毒!! Mイーシーで有効菌を増やして悪玉菌の動きを抑えます!!

ボカシ肥

MB動物有機ペレット

良質動物有機質のボカシ肥
(ペレット)
※指定配合肥料



NET 15kg

【効果】

動物質由来原料を100%使用しており、粗タンパクが豊富であるため、肥効が長効します。
アミノ酸・核酸・ミネラルが豊富で、作物のうま味を引き出しますので、特に果菜類や果樹類の栽培におすすめします。

【基本使用量】(10a当たり)

元肥：10~40袋(150~600kg)

<保証成分量>(現物当たり)(%) <成分分析値>

窒素	リン酸	加里	C/N比
3.0	5.0	4.0	9.0



ボカシ肥と堆肥の違い

ボカシ肥も堆肥も、微生物の活動によって作られるのは同じです。
これらの違いは、その発酵熟成の度合いです。

ボカシ肥…肥料効果を求めるため、窒素成分を残した**中熟品**が適しています。(栄養分の補給が目的)

堆肥…土作りのために用いられますので、出来るだけ分解を進めた**完熟品**が適しています。(土壌環境の改善が目的)

ミズホ資材では
ボカシ肥…**MB動物有機ペレット**
新ぼかし大将
(バクヤーゼK)
堆肥…**バクヤーゼ堆肥**
があります。



新ぼかし大将

好気性発酵ボカシ肥
(粒状)
※特殊肥料



NET 15kg

【効果】

100%有機原料。ミズホのボカシ肥の中で、最も多くの有効微生物を含んでいます。寒冷地や低地温時でも力強い肥効を実現。有機由来のミネラルも豊富に含んでいます。

<成分分析値>(現物当たり)(%)

窒素	リン酸	加里	苦土	石灰
3.5~4.0	4.0~4.5	3.5~4.0	1.2~1.5	4.5~5.5

【基本使用量】(10a当たり)

元肥	果菜類	20~40袋(300~600kg)
	葉菜・根菜類	10~30袋(150~450kg)
	豆類	5~15袋(75~225kg)
	花卉類	10~20袋(150~300kg)
	果樹類	15~30袋(225~450kg)
	稲作	3~6袋(45~90kg)

バクヤーゼと光合成細菌を発酵菌として使用しているため、有効微生物が多く住んでいます。

有機入り配合肥料

バランスパワー

発酵有機質入り配合肥料
(粒状)
※指定配合肥料



NET 20kg

(写真は東北仕様です)

【効果】

ボカシ肥(67%)・化学肥料を配合し、それぞれの利点や効果を活かした新しいタイプの肥料です。窒素・リン酸・加里がバランスよく配合されているため、施肥作業も省力できます。
元肥・追肥問わずご使用いただけます。

<保証成分量>(東北仕様)(%)

窒素 全量	内アンモニ ア性窒素	リン酸 全量	内可溶性 リン酸	内水溶性 リン酸	加里 全量	内水溶性 加里
10.5	1.0	6.0	3.5	3.0	5.0	4.0

※現在、この商品は東北地方と北海道の限定販売となっております。
また、地域に特化した仕様のため、成分が異なります。
詳細は弊社までお問い合わせください。

アミノ酸液肥

アミタゴールド

高品質アミノ酸ビタミン濃縮液肥
※肥料登録：千葉県第1107号



NET 20kg

【効果】

消化吸収の良いアミノ酸により、天候に左右されることなく、バランス良く生育を促進します。
また、旨味成分の効果により、収穫物の味が濃厚になります。

【基本使用量】(10a当たり)

カン水：半~1箱(10~20kg)/回
カン注：1~2箱(20~40kg)/回
※水稻では、穂肥時に1/4~1箱(5~20kg)を流水施肥します。

※流動性が良いので点滴カン水にも使用できます。

<保証成分量>(%)

窒素	アミノ酸濃度
6.5	約44

※アミノ酸濃度は分析値です。

新アミタ1号

アミノ酸ビタミン濃縮液肥
※肥料登録：長崎県第596号



NET 20kg

【効果】

果菜類などの実の肥大・樹勢の維持に最適です。動物有機100%の液肥なので様々なアミノ酸やビタミンを含有し、糖度を上げる等、食味向上に役立ちます。

【基本使用量】(10a当たり)

アミタゴールドと同様です。
(左記参照)

<保証成分量>(%)

窒素	アミノ酸濃度
6.0	約40

※アミノ酸濃度は分析値です。

※品質管理上、6・7・8月の期間中の生産は行っておりません。
ご注文されるときは、ご確認をお願いいたします。

発根促進資材

サンレッド

冷水田・冷温障害・ガス害対策資材
(高密度タイプ光合成細菌)
1ケース(300mL×12本)



NET 300mL

【効果】

ガス害の予防、根腐れの改善、葉色(光沢)の向上、活力活性、発根力の強化、土中バクテリアの活性、光合成の促進などの効果があります。

【使用方法】(10a当たり)

稲:ガス害予防・冷水田対策
1/3本(100mL)~2/3本(200mL)を流水施用します。
また、1/3本とPフォスタ半袋(500g)を250Lの水に溶かして、3~5日おきに全面散布します。

畑:根腐れ対策・発根促進

1/3本(100mL)~1本(300mL)を20~30日おきにカン水またはカン注します。

バイオ根助

発根促進・有効菌繁殖促進資材
(高純度木酢液)



NET 20L

【効果】

高純度の木酢液で、有効菌(善玉菌)の活性を促進させ、発根障害を改善する効果があります。

【使用方法】

- 発根障害の防止
500~1,000倍液を散水、またはカン水に使用します。
- 発根障害発生時
20~50倍液を株元散水します。

キトチンキ

発根促進・葉面保護・活着促進資材
(高濃度キトサン液)
1ケース(3L×6本)



NET 3L

【効果】

- 有効微生物群(特に放線菌)の増殖を促進させ、悪玉菌の繁殖を抑制します。
- 植物内部の免疫力を高め、耐病性と抵抗力を強化し、外敵から植物を守ります。
- 土中では、キトサンオリゴ糖となり、選択的に有効微生物の繁殖を促進させます。
- 葉面施用では、葉面に保護膜を作り、外敵の侵入を防ぐ働きがあります。

【使用方法】

- 活着の促進
100~200倍液に苗ポットを浸してから定植してください。
- 有効菌の増殖及び発根促進
500~1,000倍液をカン水します。(約20日おき)
- 土壌病害が発生した時
<軽度>400~700倍液をカン水します。
(7~10日おきに2~4回)
<中度>200~400倍液をカン水します。
(5~7日おきに2~4回)
<重度>100~200倍液をカン水します。
(障害株周辺に3~5日おきに2~4回)
- 葉面保護
300~600倍液を3~10日おきに2~4回葉面散布します。

※キトサンとは、カニ殻から抽出したキチン質により精製されたものです。キトサンには、植物を活性化させる力があり、生長促進効果があります。また、作物の自己防衛機能を高めるので、耐病性が強化されます。

育苗資材

苗上手アクセルA

生育促進資材
1ケース(500mL×30本)
※肥料登録:生第83189号



NET 500mL

【効果】

生長促進・葉色向上液肥です。
苗上手ブレーキBとの併用で、生育調整が可能です。苗の生育の遅れを解消し、葉に厚みがでます。

【使用方法】(苗上手ブレーキBも同様)

- 水稻苗
葉齢1葉期から生育に応じて200倍液を、苗箱1枚当たり300~500mLの量で1~2回カン水します。
- 野菜苗
本葉1葉期から生育に応じて400倍液をカン水します。

<保証成分量> (%)

窒素	リン酸	加里	苦土
8.0	3.0	3.0	1.0

※成分の性質上、沈殿物が発生することがあります。ご使用になる前に、よく振ってから施肥してください。

苗上手ブレーキB

徒長防止資材
1ケース(500mL×30本)
※肥料登録:生第83190号



NET 500mL

【効果】

徒長防止・発根促進液肥です。
苗上手アクセルAとの併用で生育調整が可能です。特殊加工したリン酸・有機酸の効果で、徒長を防止して太く丈夫な苗に仕上げます。
また、速効的な効果がありますので、急激な天候不良による、苗の徒長対策にも有効です。

【使用方法】

苗上手アクセルAと同様です。(左記参照)

<保証成分量> (%)

窒素	リン酸	加里	苦土
1.0	12.0	5.0	1.0

※成分の性質上、沈殿物が発生することがあります。ご使用になる前に、よく振ってから施肥してください。

葉面散布材

Pフォスタ

着果・結実・糖度・着色促進
1ケース(1kg×20本)



NET 1kg

【効果】

窒素過多の解消(ブレイキ役)・着果(着花)促進・着色促進・糖度向上・軟弱徒長の改善、日照不足対策に効果があります。Mリンカリンで処理されているため、リン酸の固定化を防ぎ、葉面や根茎からのリン酸の吸収率が高い資材です。

【使用方法】

- 育苗時
徒長防止と根量増加に800~1,000倍液を2~3回葉面散布します。
- 生長期
500~700倍液を2~3日おきに2~3回葉面散布します。

リン酸とマグネシウムの相乗効果

リーフアップCa

石灰・苦土の補給
1ケース(1kg×20袋)



NET 1kg

<成分設計値> (%)

水溶性 苦土	水溶性 石灰
10.0	10.0

【効果】

石灰欠乏による尻腐れ・心腐れ・フチ腐れに効果があります。また、苦土欠乏にも有効です。

【使用方法】

- 石灰・苦土欠乏
400~500倍液を3~5日おきに2~3回葉面散布します。
- 尻腐れ・心腐れ・フチ腐れ対策
500~600倍液を3~5日おきに2~3回葉面散布します。
- 着色・糖度向上促進
300~600倍液を3~5日おきに2~3回葉面散布します。

リーフアップA

アミノ酸・リン酸・微量要素補給
1ケース(1kg×20袋)
※肥料登録:生第86134号



NET 1kg

※よく混ぜて静置後、上澄み液を使用して下さい。

【効果】

有機栄養源と微量要素が配合され、作物の栄養補給とタンパク代謝、エネルギー効率を高めます。

【使用方法】

- 育苗・定植時
800~1,000倍液を3~4日おきに2~3回葉面散布します。
- 分化期後
500~700倍液を3~5日おきに葉面散布します。

<保証成分量> (%)

窒素	リン酸	加里	苦土	マンガ	ホウ素
3.0	11.0	7.0	3.0	0.1	0.5

リーフアップN

生育促進・肥大促進・微量要素補給
1ケース(1kg×20袋)
※肥料登録:105168号



NET 1kg

<保証成分量> (%)

窒素	リン酸	加里	苦土	マンガ	ホウ素
15.0	3.0	2.0	2.0	0.5	0.2

【効果】

生育促進(アクセル役)・初期生育の促進・実の肥大促進・生り疲れ対策・樹勢維持などに効果があります。

【使用方法】

- 育苗時
生育促進のために500~1,000倍液を2~3回葉面散布します。
- 定植時
500~800倍液を3~5日おきに2~3回葉面散布します。
- 生長期
500~800倍液を3~5日おきに2~3回葉面散布します。

リーフA液材

高級アミノ酸液肥
1ケース(3kg×6袋)/徳用サイズ20kg
※肥料登録:千葉県第1122号



NET 3kg

【効果】

葉肉を厚く、色艶を良くし、実の肥大促進・光合成の促進・樹勢強化・生り疲れ防止と回復・栄養失調によるダニの発生を抑制する効果があります。

【使用方法】

- 樹勢低下・生り疲れ防止
500~800倍液を3~5日おきに2~3回葉面散布します。
- 育苗時の追肥・定植時のドブ漬け
800~1,000倍液をカン水します。

<保証成分量> (%)

窒素	アミノ酸含有量
8.0	約53.0

※ダニの忌避作用があると
言われるアルギニン(アミノ酸)を
高い濃度で含んでいます。

※アミノ酸含有量は分析値です。

リーフSG

多糖配合活性材
(プルラントレハロース)
1ケース(200g×5袋×20セット)



NET 200g(1袋)

※ご注文は1セット
(5袋)からと
なります

【効果】

葉面を保護し、乾燥・凍結・萎れ対策に役立ちます。また、展着剤としての効果があります。

【使用方法】

- 葉面の保護
1,000倍液を葉の裏面を中心に噴霧します。状況を見ながら連日、または3~5日おきに連用します。
- 乾燥・凍結・霜の対策
茎部切断面を1,000倍液に12~24時間浸してください。
- 乾燥・凍結・霜の対策
1,000倍液を3~5日おきに2~3回葉面散布します。

耐病性強化資材

リーフアップバリア

耐病性強化資材

1ケース(500ml×12本)／
1ケース(5L×4本)／徳用20L



NET 5L

【効果】

軟弱徒長・過繁茂・天候不順時の生育活性材です。高濃度有機酸が植物の代謝を促進させ、品質を向上させます。曇雨天や過湿の時はもちろん、葉面散布の補助材として幅広く活用できます。

【使用方法】

- 健康促進
300～500倍液(5～7日おきに連用)
＜軟弱・育苗期:500～1,000倍液＞
- 窒素過多により耐病性が弱った時
200～300倍液(2～3日おきに連用)
＜軟弱・育苗期:300～800倍液＞

リーフアップV2

耐病性強化資材

1ケース(5L×4本)



NET 5L

【効果】

害虫が嫌がる数種類の植物エキスト天然石けんを配合した食害軽減資材です。

【使用方法】

- 病気予防
300～500倍液を3～5日おきに2～3回葉面散布します。
- 害虫発生時
100～200倍液を1～2日おきに2～3回葉面散布します。

リーフアップV3

耐病性強化資材

1ケース(5L×4本)



NET 5L

【効果】

キトサン・精製木酢液・有機酸を主成分とし、軟弱徒長や過繁茂などで耐病性が低下した作物を強化させます。

【使用方法】

- 健康促進
300～500倍液を3～5日おきに2～3回葉面散布します。
- 土壌病害対策
100～200倍液を1株当たり1～2L株元カン水します。



リーフアップシリーズは、ハチに害を与えることはありませんが、ハチに直接散布しないようにしてください。

【葉面散布材混合可否早見表】 500倍希釈の場合

	リーフアップN	Pフォスタ	リーフA液材	リーフアップCa	リーフアップバリア	リーフアップV2	リーフアップV3	キトチンキ
リーフアップN		○	○	○	○	○	○	○
Pフォスタ	○		○	○	○	○	○	○
リーフA液材	○	○		○	○	○	○	○
リーフアップCa	○	○	○		○	○	○	○
リーフアップバリア	○	○	○	○		○	○	○
リーフアップV2	○	○	○	○	○		×	○
リーフアップV3	○	○	○	○	○	×		○
キトチンキ	○	○	○	○	○	○	○	

注：混合する場合は、それぞれの資材を希釈してから混合することをおすすめします。

【葉面散布材希釈倍率表】(水100Lあたりに溶かす資材の必要量)

使用倍率	1,000倍	800倍	500倍	300倍	200倍	100倍
資材必要量	100g (mL)	125g (mL)	200g (mL)	333g (mL)	500g (mL)	1,000g (mL)

注意!!

※リーフアップCaまたは、リーフアップV2を農薬と混用して葉面散布する場合は、リーフアップCaまたは、リーフアップV2を先に水に溶かした後、農薬と混用してご使用ください。

※日中や高温時など、すぐに散布材が蒸発する恐れのある場合は散布を避けてください。

※葉や果実に障害が発生しやすい作物は、あらかじめ小面積でテスト散布し、葉や果実に変色などの障害が発生しないことを確認してからご使用ください。

Mリン農法のポイント

有効微生物と良質堆肥による土作りと、高エネルギーの養分供給としてのボカシ肥の2本立てにより、生育を強めるアクセルの役割を果たします。

土と根作り

リン酸による生育調整

リン酸を適期に十分吸収させて、生育を抑制し、生殖生長へ向かわせるブレーキ的役割を果たします。耐病性強化および食味向上の効果があります。

Mリン農法の四つの柱

葉面散布で作物の生育を速攻的に調整します。生育促進・抑制、生育充実、病虫害対策の4つの調整からなります。

葉面散布による生育調整

補助的な土と根作り

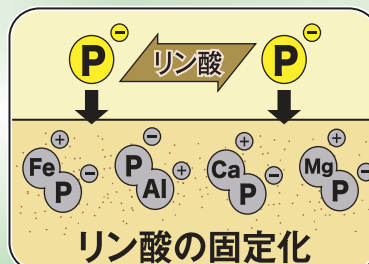
過剰堆積した塩類の除塩、連作による土壤病害、いや地現象の軽減、ガス害の解消などを側面から援助します。

肥料の特性

三大要素のそれぞれの働き



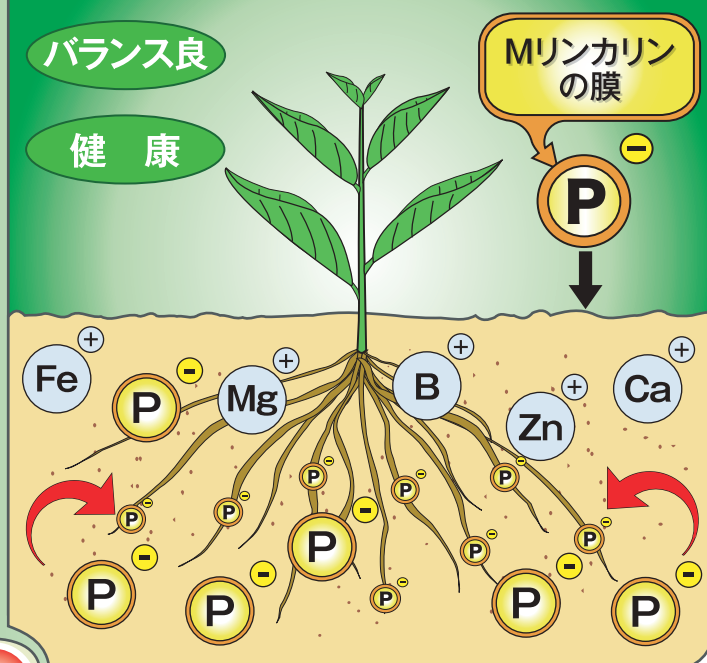
リン酸が効かない原因



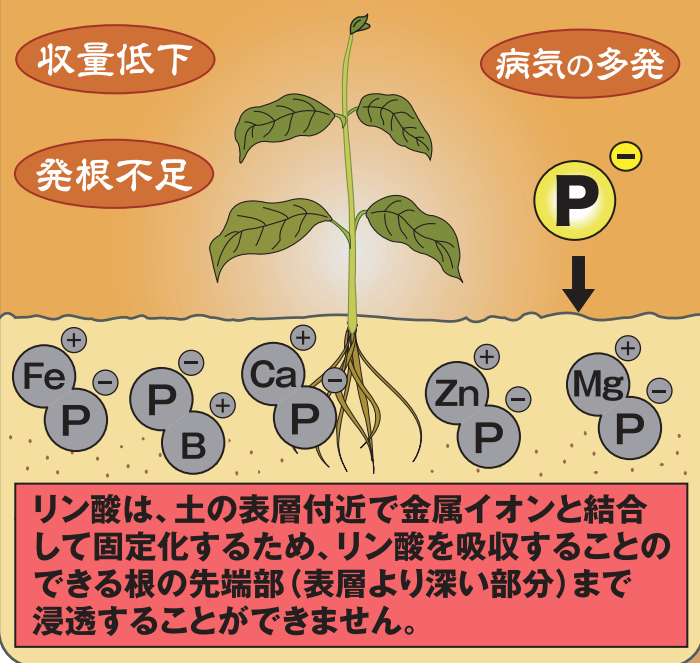
リン酸は、水に溶けて作物の根から吸収されますが、リン酸（一イオン）は土中の金属イオン（アルミニウム・マグネシウム・カルシウムなどの＋イオン）と結合し、水に溶けにくくなります。このようにリン酸と金属イオンが結合することを、**リン酸の固定化**と言い、リン酸が効かない主な原因となっています。

Mリンカリでリン酸の固定化解決

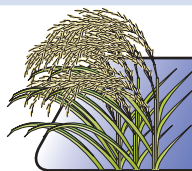
吸収しやすいリン酸



吸収できないリン酸



作物別施肥基準



水稻

<10a当たり>

元肥

	暖地	寒冷地	極寒地
MリンPK	20~30kg	20kg	20kg
硫安	0~15kg	10~20kg	20~40kg

硫安の代わりに
有機窒素分として
バクヤーゼK
3~6袋
(45~90kg)
でも代用できるよ。



追肥

① 調節肥(出穂45~30日前)

稲の様子を見て
調節肥のやり方を
合わせよう!

葉が45度に立ち
元気モリモリ!

窒素過多で葉が
垂れて色が濃い

大きくなれない



生育状況	肥料切れ	標準	過繁茂
葉色の目安	【コシヒカリ等】		
	3.5~4.0	4.0~4.5	5.0 以上
施肥量	【多収米等コシヒカリ以外】		
	4.0~4.5	4.5~5.0	5.5 以上
施肥量	MリンPK 10~20kg	MリンPK 0~20kg	MリンPK 20~30kg
	硫安 3~6kg	硫安 0~5kg	—

② 穂肥(出穂25~18日前)

第1穂肥

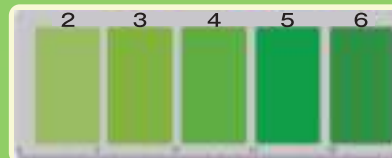
暖地	MリンPK 尿素	20kg 4~6kg
寒冷地	MリンPK 硫安	20kg 8~12kg

第2穂肥

暖地	MリンPK 尿素	20kg 4~6kg
寒冷地	MリンPK 硫安	20kg 5~8kg

★コシヒカリは、幼穂が10mm前後の時、その他の品種は2~3mmの時に穂肥を施用して下さい。

※葉色の目安を測定するときはミズホ葉色板をご利用ください。



ミズホ葉色板

(ミリ単位 目盛り付き)

ご購入は弊社までお問い合わせください。(裏表紙参照)

流水施肥

「MリンPK類・アミビタゴールド・尿素・硫安」などが使用できます



① 田全体に深さが1cm前後になるように水を張ります。



② 水を流し込みながらMリンPKを水口から投入します。

※硫安など同時期に投入する場合は、最初にMリンPKを投入してください。



③ 肥料投入後も水を流し込み続け水深が10~15cmになったら止水します。

※止水が早いと肥料ムラの原因になります。

水管理

食味・収量・倒伏の有無、イモチ病の発生等を大きく左右します

① 田植え20~30日後に落水。田の全体が軽くひび割れるまで田を干し、メタンガスなど根に有害なガスを放出・炭酸ガスに変換します。

② その後は、間断カン水を行い、根圏に酸素を供給し、発根性を高めます。

※サンレッド100~200mlを流水施肥すると、有害なガスを無害化し、根腐れを予防します。粘質田や湿田など、ガスが発生しやすい田や、水管理の難しい田ではたいへん有効です。

出穂45日前の姿



Mリン栽培

慣行栽培

倒伏の危険ナシ

過繁茂で倒伏の危険大

果菜類

★アミビタA液肥の作り方は、12ページ右下段を参照

<10a当たり>

ナス、キュウリ、ピーマン、オクラなど

元肥

定植15日以上前

MリンPK	30~40 kg
MB有機シリーズ	400~500kg
尿 素	20~30 kg
硫酸マグネシウム	0~20 kg



追肥

1回当たり

■ カン水施肥

※収穫始め頃より7~10日おき
収穫最盛期3~7日おき

アミビタゴールド	20~30kg
(または★アミビタA液肥 10~30ℓ)	
MリンPK液肥の素	2~3kg

■ 置肥

(1ヶ月おき)

MリンPK	30~40kg
MB有機シリーズ	60~75kg
硫酸マグネシウム	10~20kg

■ カン注施肥

(20日おき)

※500ℓの水に薄めて使用します。

アミビタゴールド	20~40kg
(または★アミビタA液肥 10~40ℓ)	
MリンPK液肥の素	2~4kg

トマト、イチゴ

元肥

定植15日以上前

MリンPK	30~40 kg
MB有機シリーズ	200~300kg
尿 素	0~10 kg
硫酸マグネシウム	0~20 kg



追肥

1回当たり

■ 施肥時期

トマト：3段目着果頃より10~15日おき

イチゴ：幼果肥大期より10~15日おき

■ カン水施肥

(3~10日おき)

アミビタゴールド	10~20kg
(または★アミビタA液肥 10~20ℓ)	
MリンPK液肥の素	1~2kg

■ カン注施肥

(20~30日おき)

アミビタゴールド	20~40kg
(または★アミビタA液肥 20~40ℓ)	
MリンPK液肥の素	2~4kg

スイカ、メロン、ウリ、カボチャなど

元肥

定植15日以上前

MリンPK	20~40 kg
MB有機シリーズ	150~250kg
硫酸マグネシウム	0~20 kg

※寒冷地の元肥

MリンPK	20~30 kg
MB有機シリーズ	300~350kg



追肥

1回当たり

追肥時期



開花5~10日前

着果促進

Pフォスタ 500倍液を
2~3日おきに
2~3回葉面散布します。



肥大期
(メロン：ピンポン玉大
スイカ：卵大
カボチャ：卵大)

肥大促進

アミビタゴールド 20~30kg
(または★アミビタA液肥 10~30ℓ)
MリンPK液肥の素 2~3kg



収穫15~20日前

糖度向上

MリンPK液肥の素 3~4kg
Pフォスタ 500倍液を
2~3日おきに
2~3回葉面散布します。

ウリ類など

【カン注施肥】(20日おき)

アミビタゴールド	30~40kg
(または★アミビタA液肥 15~40ℓ)	
MリンPK液肥の素	3~4kg

※500ℓの水に薄めて使用します。

根菜類

<10a当たり>

ジャガイモ

元肥

MリンPK	20~40 kg
MB有機シリーズ	100~150kg
尿 素	15~20 kg
硫酸マグネシウム	0~20 kg

定植15日以上前

追肥

■ 土寄せ前

MリンPK 20~30kg

硫 安 10~20kg

※追肥は肥切れの早い硫安がよい

■ 開花時、収穫1ヶ月前頃より

Pフォスタ 500倍液を
3~5日おきに2~3回
葉面散布します。



ダイコン、カブ、ニンジン

元肥

MリンPK	20~30 kg
MB有機シリーズ	100~150kg
尿 素	15~20 kg
硫酸マグネシウム	0~20 kg

定植30日以上前

追肥

■ 最後の間引き頃

MリンPK 20~30kg

硫 安 0~20kg

■ 収穫1ヶ月前頃より

Pフォスタ 500倍液を
3~5日おきに2~3回
葉面散布します。



サトイモ、ナガイモ、ゴボウ

元肥

MリンPK	20~40 kg
MB有機シリーズ	100~150kg
尿 素	20~30 kg
硫酸マグネシウム	0~20 kg

定植30日以上前

追肥

■ 追肥は土寄せを兼ねて 2~3回行います

MリンPK 20~30 kg

硫 安 20~30 kg

■ 収穫1ヶ月前頃より

Pフォスタ 500倍液を
3~5日おきに2~3回
葉面散布します。



サツマイモ

元肥

MリンPK	30~40kg
MB有機シリーズ	70~90kg
尿 素	5~10kg
硫酸マグネシウム	0~20kg

定植15日以上前

追肥

■ 収穫1ヶ月前頃より

MリンPK 20~40kg



アミビタA液肥(アクセル役)の作り方

※各作物に共通

【材料】

アミビタゴールド	20kg
サンレッド	200ml
尿 素	10~20kg
水	100ℓ

全て混ぜ
合わせて、
2~3日以上
熟成させる

※トマト・イチゴ・メロン・スイカなどでは
尿素有0~10kgにする

【アミビタA液肥の使用方法】 (10a当たり)

<カン水施肥>

10~20ℓ (5~10日おき)

<カン注施肥>

30~40ℓ (20~30日おき)

注意点

ボカシ肥は早く土壌になじませておかないと、
害虫が寄り付いたり、根菜類においては変形
する場合があります。



MB有機シリーズは作付けの
1ヶ月前に施肥しておくのが
おすすめです。

豆 類

<10a当たり>

サヤエンドウ、インゲン

元 肥

定植20日以上前

MリンPK	20~30 kg
MB有機シリーズ	100~250kg
尿 素	5~10 kg
硫酸マグネシウム	0~20 kg

追 肥

- 開花後、サヤが付き始める頃より7~15日おきに施肥します。

MリンPK	20kg
★アミビタA液肥	20~30ℓ
硫 安	10~20kg



ダイズ、エダマメ、ソラマメ

元 肥

定植20日以上前

MリンPK	20~30 kg
MB有機シリーズ	100~120kg
尿 素	5~10 kg
硫酸マグネシウム	0~20 kg

追 肥

- 土寄せ時
MリンPK 20kg
※生育不良の場合
硫 安 5~10kg
- 開花時
MリンPK 20kg
- 収穫前
MリンPK 20kg



葉茎類

<10a当たり>

アスパラガス

元 肥

定植15日以上前

MリンPK	30~40 kg
MB有機シリーズ	300~500kg
尿 素	20~30 kg
硫酸マグネシウム	0~20 kg

追 肥

定植2年目以降

- 収穫前に1回、収穫後または立茎後1ヶ月おきに2~3回施肥します。

MリンPK	20~30kg
★アミビタA液肥	20ℓ

※草勢が弱いときはアミビタA液肥を多め、尿素5~10kgを追肥する。
草勢が強いときはMリンPKを多め、アミビタA液肥を少なめに施肥する。



ニンニク

元 肥

定植15日以上前

MリンPK	30~40 kg
MB有機シリーズ	300~500kg
尿 素	20~30 kg
硫酸マグネシウム	0~20 kg

追 肥

- 春先(3~4月頃)
MリンPK 20~30kg
硫 安 20~30kg
- 収穫1~2ヶ月前
Pフォスタ500倍液
または
リーフアップN500倍液を2~3日おきに葉面散布
- ※多雨の時は追肥で
MリンPK 20~30kg
- ※乾燥の時はカン水で
アミビタゴールド 500倍液



葉菜類

<10a当たり>

ハクサイ、キャベツ ブロッコリー、レタス

元肥

定植10日以上前

MリンPK	20~30 kg
MB有機シリーズ	200~300kg
尿 素	20~40 kg
硫酸マグネシウム	0~20 kg

追肥

MリンPK	20~30kg
硫 安	10~30kg



追肥時期

ハクサイ、キャベツ、レタス

- 定植15日後と結球開始期
- 肥料切れになると生育は回復しにくいので、早めに追肥します。

ブロッコリー

- 活着直後と花蕾が見え始めた頃
- 側枝の花蕾を収穫する場合、頂花蕾収穫後にも追肥します。

ホウレンソウ、コマツナ

元肥

播種10日以上前

MリンPK	20~40 kg
MB有機シリーズ	150~200kg
尿 素	10~20 kg
硫酸マグネシウム	0~20 kg

追肥

- 生育状況を見て追肥 (1~2回)
Pフォスタ 500倍液
または
リーフアップN 500倍液
を葉面散布します。



タマネギ

元肥

定植15日以上前

MリンPK	20~40 kg
MB有機シリーズ	150~200kg
尿 素	10~20 kg
硫酸マグネシウム	0~20 kg

追肥

- 肥大初期
MリンPK 20~30kg
硫 安 20~30kg
- 肥大後期(倒伏前)
MリンPK 20~30kg



ネギ、ニラ

元肥

定植10日以上前

MリンPK	20~30 kg
MB有機シリーズ	200~300kg
尿 素	10~20 kg
硫酸マグネシウム	0~20 kg

追肥

ネギ

追肥は土寄せを兼ねて
行います(2~3回)
MリンPK 20~30kg
尿 素 10~20kg

ニラ

生育状況を見て(軟弱徒長
のとき)追肥します(2~3回)
MリンPK 20~30kg



- 葉色向上
リーフアップN 500~600倍液
- 軟弱生育時
Pフォスタ 500~600倍液
※2~3日おきに葉面散布し、
効果が見えるまで連用する。

注意点 MリンPKシリーズは、一袋で同じリン酸の肥効となります。
作業性や利便性を考慮して使い分けてください。



穀物

<10a当たり>

トウモロコシ

元肥

MリンPK 30~40 kg
MB有機シリーズ 150~300kg
尿 素 20~30 kg
硫酸マグネシウム 0~20 kg

定植10日以上前

追肥

本葉6~8枚の頃と、雄穂出穂期に追肥します。

MリンPK 20kg
硫 安 20~30kg

※収穫1ヶ月前は、MリンPKのみを追肥します。



ムギ類

元肥

MリンPK 20~30kg
尿 素 10~15kg

播種15日以上前

追肥

■ 早春期

MリンPK 20~30kg
硫 安 20~30kg

■ 出穂20日前(穂肥)

(幼穂3~10mm頃)

MリンPK 10~30kg
硫 安 10~20kg

■ 出穂7~10日前(実肥)

MリンPK 20~30kg
硫 安 10~20kg



果樹類

<10a当たり>

元肥

収穫終了後～
落葉するまで

追肥

MリンPK 40~50 kg
MB有機シリーズ 200~400kg

■ 春肥

MリンPK 15~30kg
硫 安 10~20kg

■ 開花前(着果促進)

MリンPK 30~40kg

■ 新梢停止期(梅雨時期)

MリンPK 40~50kg

■ 肥大促進

アミビタゴールド 10~20kg

■ 着色期

MリンPK 40~60kg

※雨が続く場合は、2回施肥します。
さらにPフォスタ400~500倍液を
使用することで着色促進・糖度向上
などに効果があります。



花卉類

<10a当たり>

元肥

定植15日以上前

MリンPK 30~40 kg
MB有機シリーズ 100~200kg
尿 素 10~20 kg
硫酸マグネシウム 0~20 kg

追肥

■ 生育調整

MリンPK液肥の素 2~3 kg
アミビタゴールド 20~30kg

■ 軟弱徒長対策

Pフォスタ 500倍液



株式会社 ミズホ

〒466-0807 名古屋市昭和区山花町64-1

TEL 052(763)4171(代) FAX 052(761)3771

URL <http://www.mizuho.to/> e-mail bio@mizuho.to

<お申込みは...>

※このカタログの内容は、2019年9月現在のものであり、内容については予告なく変更する場合があります。

※このカタログに記載されている会社名・製品名は登録商標または商標です。

※このカタログの著作権は、弊社にあり無断転写を禁じます。

定 価 80円(税別)

PR.NO.MIZUHO-1909/5000<N>\80E